

# 川

「泥の河」

「螢川」

「道頓堀川」

# 三部作 展

三本の川は、言いえれば三種類の教育を  
私にほどこしてくれたことになる。  
しかも川は三本であったが、(中略)  
私の中で一本の川となってつながって行く。

「川」より(「二十歳の火影」所収)

ごあいさつ

このたびは川三部作展にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。

川三部作とは、第13回太宰治賞受賞の「泥の河」(1978年)、

第78回芥川龍之介賞受賞の「螢川」(1978年)、「道頓堀川」(1981年)の総称であり、  
宮本輝氏の出世作です。

「泥の河」は昭和30年、大阪の安治川河畔を、「螢川」は昭和37年、いたち川が流れる富山市内を、  
そして「道頓堀川」は昭和44年の大阪ミナミの繁華街を、それぞれ舞台とする3つの物語です。

少年期、思春期、青年期の主人公を通して描かれているのは、

宮本輝氏自身が3本の川のひとりで暮らした経験が背景となって生まれた小説の世界です。

ご来場の皆様には、作品紹介や関連資料などを通じて、

作品世界を広げていただく機会となれば幸いに存じます。